

入域観光客統計概況

－平成16年11月分－

沖縄県観光リゾート局

11月の入域観光客数は409,900人。前年同月比は△4.3% (△18,200人)で、同月としては過去2番目の記録となった。
1月～11月までの入域観光客数は4,762,400人。前年同期比は+1.7% (+79,000人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：406,900人 前年同月比 (△14,400人 △3.4%)
海路：3,000人 前年同月比 (△3,800人 △55.9%)

2. 主要航路別入域状況

東京：184,000人 前年同月比 (△7,900人 △4.1%) 構成比 44.9%
阪神：68,100人 前年同月比 (△3,100人 △4.4%) 構成比 16.6%
福岡：59,000人 前年同月比 (△2,800人 △4.5%) 構成比 14.4%
名古屋：32,400人 前年同月比 (+100人 +0.3%) 構成比 7.9%

3. 概況と見通し

11月の入域観光客数は、昨年と比べ日並びが悪かったこと（昨年は3連休が2回→今年は0）や修学旅行の実施時期の変更、全国で相次いだ自然災害（台風・地震）の影響による旅行マインドの低下、昨年は12月まで運航があった海外クルーズ船が今年は運航が終了したことなどにより、国内客、外国客ともに前年実績を下回る結果となった。

今後の見通しとしては、国内客については、年末年始のDFS空港外店舗のオープンによる誘客効果や修学旅行の増加、官民による誘客キャンペーンの強化（JAL札幌路線20周年キャンペーン、JCBいこうよ！おいでよ！沖縄キャンペーン等）などにより増加が見込まれるものの、年末年始の日並びが悪いことや海外旅行との競合激化などが懸念材料として考えられる。

外国客については、昨年は運航があった台湾からのクルーズ船が今期は終了していることにより海路は減少が見込まれるものの、空路については、2月に韓国から7便、台湾から6便のチャーター便が予定されており、増加が見込まれる。

以上のことから、入域観光客全体としては、おおむね好調に推移するものと思われる。

担 当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 11月は昨年と違い日並びが悪く、個人旅行商品の伸びが悪かった。
- 年末年始は休暇が短いので、国内旅行は近場志向の旅行が多く、沖縄への旅行は需要が期待できない。
- 新たに沖縄観光の魅力としてDFSのオープンにより、エージェントが積極的に商品造成に取り組んでおり、観光客の増加につながるものと期待される。

大阪事務所 (阪神地区)

- 海外、特にアジア方面が好調に推移していることや、秋の旅行シーズンに紅葉・温泉等の近場志向により、入域観光客の減少となった。
- 震災の影響による旅行の手控えも、減少の遠因の一つと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 11月は、個人客は前年並みに推移したものの、一般団体、メディア商品等の不振から減少した。特に離島の周遊型の不振が響いたと考えられる。
- 12月の予約は、23～25日の連休と年末は好調であるが、全体的には前年並みの状況にある。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- フリー型、ツアー型ともに好調で昨年並みとなる。特にツアー型については、年配の方を中心に順調な伸びを示した。
- 12月以降は順調に推移している模様。ただし、暖冬のため避寒地としての沖縄がアピールしづらい懸念がある。2月のキャンプ観戦商品は好感触である。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 11月の減少要因は、道内の旅行需要全体の落ち込みと暖冬による避寒地需要の低迷などが挙げられる。旅行形態別では団体の需要が減少した模様である。
- 1月は、直行便就航20周年キャンペーンの影響もあり、団体旅行などの予約が入りつつあるが、海外旅行との競合により厳しい状況が続く見込みである。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 11月は、12月の立法院選挙が旅行マインドに影響したことや、今期の定期クルーズ船の運航が10月で終了したことにより、大幅に減少となった。
- 旅行シーズンとなる2月の春節時期に、台北から4便、高雄から2便のチャーター便の運航が予定されている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 11月は相変わらず東南アジアの格安商品が旅行市場を主導し、沖縄は他地域との価格競争に勝てず、観光客の減少となった。
- 2月には、チャーター便7便の運航が予定されている。